

資料 4

地域学校協働活動としての受注作業(委託)

1 地域学校協働活動としての受注作業の主旨

通常の学級に在籍する発達障がいのある生徒が中学校時代に不登校となり、本校に入学してくる事例が増えてきています。このような生徒は口頭言語能力や知識に比べて社会性の発達に遅れがあるため、障がい認識が進まず自分自身の自己像と実際の働く力とはギャップがあり、現場実習そのものに高いハードルを感じ、精神的につまずきやすい傾向があります。

そこで、生徒がほめられたり感謝されたりする機会を増やし、生徒自らが社会で働くために必要な準備とは何かを考え気付くようにするためには、社会で働く上で何が必要なのかを気付く機会として、校外での作業や現場実習を積極的かつ計画的に設定する必要があります。校外で行う受注作業（地域との協働活動）は、地域の関係機関の業務を補助する活動であり、スタッフの一員に準ずる存在として作業の精度を上げることで、関係機関の職員や町民から感謝されることが、生徒の自己肯定感や自己有能感を高めるとともに、生徒がより一層地域に溶け込むことにつながる教育効果の高い教育活動です。同時に、関係機関の職員や町民は、障がいのある生徒との接し方を活動を通して自然に学ぶことが可能となるのみではなく、生徒が地域コミュニティを支える存在となることにより、卒業生が地域に溶け込んで町民との交流を楽しみながら就労する「共生社会の実現」に資することができると考えられます。

今金町では、「今金町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略」（27年度～31年度）の基本戦略の第一位に「障がい者が地域産業の担い手としての活躍の場づくり」を挙げており、地域との協働活動は「共生社会の実現」を目指す国や道、町の施策とも合致します。

そして、新学習指導要領では、地域の公共システムにおけるコミュニティの拠点として、よりよい教育でよりよい社会を作ることと地域と共有する「社会に開かれた教育課程」であることが求められています。

地域の関係機関の業務補助を行うことは、生徒の社会経験の拡充と実践的な働く力の獲得に資するばかりではなく、地域コミュニティの拠点としてよりよい教育を地域と共に作り、よりよい社会を作ることにつながります。

2 町内会配布物仕分け作業、公共施設等の環境整備(平成28年度)

今金町役場が行う町内会配布物の仕分け作業、公共施設の環境整備に取り組みました。

(1) 町内会配布物仕分け作業

① 町内会配布物仕分け作業の工夫

今金町役場からの受注作業として、町内会配布物の仕分け作業を2学期から、毎月2回(第1、第3木曜日)程度実施しています。各学科から、4、5名単位で学科の作業学習とのバランスを考えながら、輪番で仕分け作業に参加しています。

町内会の班ごとに配布物を戸数分だけ仕分ける作業は、間違いはやり直しにつながるため、正確な枚数の確認と仕分けた結果の点検が必要になります。

役場職員とのふれあいや関わり合いを重視して、コミュニケーションを相互に取る場面を設けるとともに、作業の手早さや正確性の確保のために、役場職員と本校生徒がペアを組み、役場職員とのコミュニケーションを図りながら、手早さに加え、正確に枚数を数えて仕分けすることができるように工夫しています。



役場職員との回覧物仕分け作業

② 町内会配布物仕分け作業の成果と課題

ア 成果

- ・手早さと正確さが求められる作業のため、生徒は社会で働くイメージを持ちやすい活動となっています。
- ・生徒の感想は、「はじめは緊張しました。班ごとに分ける枚数が違うので間違わないように集中力が必要です。役場の方と話しながら作業しなければいけない場面もたくさんあり戸惑って手が止まってしまうことがあった。」「枚数を数えるのに時間がかかってしまった。」「時間があっという間にたっていた。またやってみたです。」などの反省や意欲の向上を示す内容でした。
- ・学科の作業学習では、手早く正確にできる生徒も、仕分け作業となると、正確に枚数を数えて記憶する能力が求められ、作業が進まないことがあり、生徒の

新たな課題の発見と生徒による主体的な努力へのきっかけ作りになりました。

- ・役場職員から、直接に感謝の言葉やお礼の言葉をいただくことにより、生徒の自己有能感が向上し、仕分け作業で明らかとなった自分の課題について、校内の作業学習でさらに取り組むようになるとともに、社会に出て働くことへの意欲の向上につながりました。
- ・平成27年度までは、町内会長が町内会配布物の仕分けを行っており、28年度から役場が担当することになり、業務量が増大したことから、本校生徒の仕分け作業への参加によって、作業量と作業時間が軽減され、双方にとって利点のある活動となりました。

イ 課題

- ・3学科共通の作業として実施をしていますが、回数に限りがあり、新たな「流通・サービス」関係の作業の切り出しが課題となりました。
- ・学科の作業学習とのバランスを取りながら実施するため、全ての生徒が同程度に経験することは難しいということが課題となりました。

(2) 町内公共施設等の環境整備

① 町内公共施設等の環境整備の工夫

今金町内の公共施設等（町民センター、総合体育館、健民グラウンド、今金八幡宮等）の清掃活動に9月に3日間の日程で2学年作業強化日の作業として取り組みました。

実施に当たっては、日頃利用することの多い施設を中心に、町民の目に触れて交流が広がることが期待される施設を選ぶとともに、清掃会社の清掃マニュアルに基づいて、事前に校内で環境整備の方法を学習し練習した後、公共施設での環境整備を行うようにしています。また、施設を管理する今金町教育委員会と連携を図りながら、日程調整や作業内容を調整して実施しています。



町民センターの環境整備



今金八幡宮の環境整備

② 町内公共施設等の環境整備の成果と課題

ア 成果

- ・日頃から支援をいただいている今金町役場が所管する施設の環境整備を行うことにより、生徒は社会貢献活動の喜びを味わうとともに、施設を使用する人に喜んでもらえるように作業することの楽しさを感じることができました。
- ・役場職員や管理者から、直接に感謝の言葉やお礼の言葉をいただくことにより、生徒の自己有能感が向上しました。

イ 課題

- ・学科作業がものづくり作業のため、学科作業とのバランスをとって実施することが課題となりました。
- ・環境整備の方法について、専門業者から指導を受けて、より質の高い環境整備を行うことが課題となりました。



健民グラウンド除草作業



除草後のグラウンド

3 今金町総合福祉施設での車いす清掃、レクリエーション補助作業、公共施設の環境整備等(平成29年度)

町内会配布物仕分け作業を継続するほか、公共施設の環境整備を2学期から毎月1回実施しています。そして、今年度からは総合福祉施設での車いす清掃を開始し、レクの補助についても9月末から取り組んでいます。また、町内の認定こども園や今金小学校の環境整備を不定期で行っています。

(1) 今金町総合福祉施設での車いす清掃

① 総合福祉施設での車いす清掃の工夫

今年度5月から毎月1回(水曜日午後)に1学年の各学科から4～8名が、輪番

で実施しています。施設には車いすが40台以上あり、これまでは施設職員が毎週水曜日に10台前後ずつ車いす清掃を実施し、全ての車いすを1ヶ月に1回前後清掃するようにしていました。ほこりや食べこぼしなどが付着していることが多く、1台の清掃に30分近くかかることもあり、人手が必要な業務となっていました。

実施に当たっては、福祉施設職員から清掃のポイントとして、車いすの操作の仕方や汚れやすい部分、安全で手早く丁寧に清掃することなどについて説明を受け、生徒は作業のポイントを意識して丁寧に清掃することを心がけて作業を行っています。1回の車いす清掃にかかる時間は90分であり、一人3、4台の車いすを清掃します。生徒による車いす清掃により、福祉施設職員が毎月4回清掃する業務が2回に減りました。



車いす清掃

② 総合福祉施設での車いす清掃の成果と課題

ア 成果

- ・ 何度か経験している生徒は、初めて取り組む生徒に自分の意識していることやどのように作業を進めれば良いかなどを伝える場面が見られました。
- ・ きれいになった車いすに乗ってもらいたいと、はりきって作業する様子が見られました。
- ・ 清掃作業中に声をかけられたときに、コミュニケーションすることができるようになりました。
- ・ 利用者さんから、「きれいになったよ。ありがとう。」と言われて「すごく嬉しかった。」などの感想を持ち、自己有能感の向上につながりました。
- ・ 働いて人に喜ばれる楽しさを実感し、校内作業への意欲が高まりました。
- ・ 生徒からは、「今日は何台も掃除することができませんでした。次はもっと掃除する台数を増やしたい。」という意欲に溢れた感想がありました。
- ・ 生徒による車いす清掃が、福祉施設職員の業務の効果的な補助活動となりました。

した。

イ 課題

- ・学科作業がものづくり作業のため、学科作業とのバランスをとって実施することが課題となりました。
- ・学科の作業学習とのバランスを取りながら実施するため、全ての生徒が同程度に経験することが難しいことが課題となりました。

(2) 総合福祉施設での高齢者デイ・サービス利用者のレクリエーション補助作業

① 総合福祉施設でのレクリエーション補助作業

福祉関係の職業に興味・関心がある生徒を対象に、今金町社会福祉協議会が行っている高齢者デイ・サービス活動のレクリエーション補助作業に、2学期9月末から毎月1回程度参加しています。

レクリエーションは、的当てなどの簡単な内容ですが、用具の準備や得点表の記載、利用者さんの移動補助などを行っています。

② 総合福祉施設でのレクリエーション補助作業の成果と課題

ア 成果

- ・利用者との関わりを通して、普段の生活でも話す速度や相手への伝え方などを意識するようになり、相手が聞きやすい速さや相手の話をよく聞いて話題を広げるなどの会話の仕方が身についてきました。
- ・福祉施設職員のレクリエーション活動の補助をする際、事前・事後の打ち合わせや活動中のコミュニケーションを通して、自分が将来福祉施設で働くことを具体的にイメージして、自分にはどのような力を身に付ける必要があるかを考えることが増えてきており、学校生活でもできることを増やそうと努力するようになりました。



レクリエーション補助作業

イ 課題

- ・ 1対1の会話が多く、生徒は聞き役に回ることが多い状況にあります。相手の話を聞くときのあいづちの打ち方や返答の仕方などのコミュニケーションスキルを一層身につける必要があります。
- ・ 仕事で人と関わるときに、どこまで自分のプライバシーを伝えてよいかという公私の区別を理解することがまだ難しい。公的な場面で話すことが可能な内容と話してはいけない内容の区別を具体的に指導する必要があります。
- ・ 利用者の状況をよく観察して動く必要がある仕事のため、高齢者の立場に立った介助や接し方などや介助に必要な体力を付ける必要があります。
- ・ 命を預かる仕事でもあるので、参加生徒が介護関係の職業に希望する場合には、在学中に介護の基礎となる部分の知識を学ぶ場の確保を検討する必要があります。

(3) 町内公共施設の環境整備

① 町内公共施設の環境整備

学校のワックスがけなどを行っていただいているメンテナンス会社から講師を派遣していただき、屋内体育館で床の清掃作業の仕方や留意する点などについて、11月に学年ごとのグループに学びました。生徒たちは、専門的な清掃方法が日頃行っている校内清掃とは異なることに驚き、意欲的に練習に取り組みました。

② 町内公共施設の環境整備の成果と課題

ア 成果

- ・ 外部講師から学んだ清掃作業を校外の公共施設で実践することができ、自信を深めるとともに、日頃からご支援いただいている今金町の公共施設の美化活動に貢献することができました。
- ・ 外部の方から簡単に指示を出され、確実な仕事をするためにどのように進めるか、時間内に終わらせるための時間配分など、指示の後には自分たちで考えて仕事を進めなければいけないという会社に近い形態での経験を行うことができました。
- ・ 普段清掃している場所とは異なる場所で、しかも異なる方法で清掃を行うということは、日常の掃除の流れとは異なるため、何をすべきか考えたり、より良い方法を見つけて工夫したりしながら仕事をする経験を行うことができました。

- ・ 報告・連絡・相談など、普段やって取り組んできた場に応じたコミュニケーションを校外の公共施設での清掃作業の場面で、卒後の就労をイメージして活用することができました。
- ・ 共生社会を実現していくための足がかりとして、地域の方々に生徒の活動を知っていただく機会となりました。



総合体育館の環境整備

イ 課題

- ・ 単に環境整備だけを特設しても、“単に掃除をする”だけになってしまうばかりか、「できた。」という間違った自己評価しかできない環境になってしまう可能性が高くなります。
- ・ 外部の方からは好意的な評価をいただくことが多く、指導者側が普段の作業学習からどのような分担でどのようなことに留意して作業を進めるのかについて協同的な課題解決の方法を生徒に丁寧に指導し、生徒が自己の課題を意識して主体的に取り組む、社会の「現場」での作業を通して課題解決することができるように、参加する生徒の絞り込みと事後の振り返りを丁寧に行う必要があります。

（教務主任 金子 亘喜）

〔模擬株式会社 IMAKANE FACTORY 営業部長〕